

令和3年度博物館実習（館園実習）を振り返って

田尾 誠敏*

1. はじめに

本学では、博物館学芸員の資格取得を目的として学芸員課程を設置しているが、その締めくくりとして博物館実習を実施している。博物館実習は、前期に行う学内実習、夏期集中授業として行う館園実習、主に後期の休日等を利用して行う見学実習という三種から構成される。このうち館園実習は、実際の博物館業務に携わることを目途とした実習で、本学では大学が運営する生活文化博物館で、実際の展示作業を模擬的に行っている。

学芸員課程は現代生活学部を対象に開講しているため、千代田三番町キャンパスの現代家政学科の受講生と、町田キャンパスの生活デザイン学科の受講生が合同で行うことにしている。2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大による度重なる緊急事態宣言の延長を受けて、6月1日付で出された「対面授業実施に関する調査について」で提示された実験実習等予備期間（7月26日～8月25日）に準ずる形で、大学の一斉休暇が明けた8月17日から20日までの4日間とし、翌8月21日は続けて見学実習に充てた。

2. 館園実習の概要

館園実習は、主に講義形式の解説や作業手順の説明を教室で行い、展示の実務作業は生活文化博物館の展示室で行った。館園実習の事前打ち合わせおよび実習期間の全般にわたって、生活文化博物館の川本利恵学芸員の手を煩わせた。

第1日目の午前は、教室においてガイダンスを行った。名札、実習ノート（実習簿）、実習要項を配布し、館園実習全体の作業内容と日程および注意事項、ならびに実習簿の記入方法を説明した。実習は班を編成して作業に当たることにしたが、両キャンパスの受講生が各4名であったので、キャンパスごとに2班を編成した。班ごとの共同作業となるので、特に新型コロナ

ウイルス感染対策として、マスクの常用とこまめな手指の消毒を心がけること、熱中症対策として水分の補給をし、体調がすぐれない場合は早めに申し出るように注意を促した。このあと、生活文化博物館の川本学芸員を交えて受講生の自己紹介を終え、生活文化博物館の概要と施設の紹介、4か所ある収蔵庫の状況を案内していただいた。実習作業の中心は、企画から立案して行うパネル展示であるため、午後に講義形式で展示企画の立て方を概説し、引き続いて各班で展示企画の検討に入った（写真1）。インターネットや図書館を活用して調べた展示企画のテーマ候補をいくつか挙げた上で、生活文化博物館の設置目的や来館者の傾向なども踏まえて、テーマを絞り込むようにした（写真2、3）。

第2日目からは、展示を実現するための本格的な作業へと移った。展示企画の候補を一本化し、展示資料や解説素材などの調査や取材を行った。千代田三番町キャンパス班は図書館と生活文化博物館を中心に、町田キャンパス班はバスで現地まで出向き、それぞれ調査を行った。展示テーマとコンセプトが各班で固まったので、この日の最後に、決定したテーマとコンセプト



写真1-1 千代田三番町キャンパス班による展示テーマの検討

*田尾 誠敏（たお まさとし）令和3年度現代生活学部非常勤講師



写真1-2 町田キャンパス班による展示テーマの検討

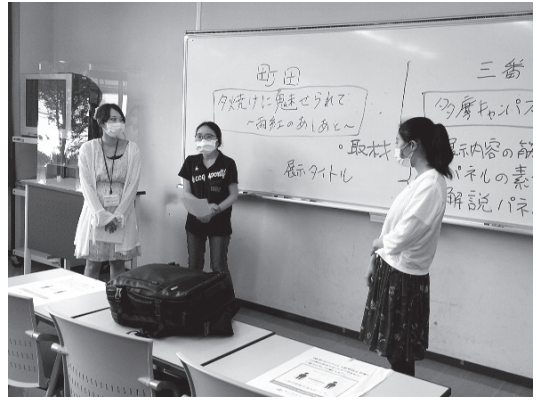


写真4-2 町田キャンパス班による展示テーマの発表

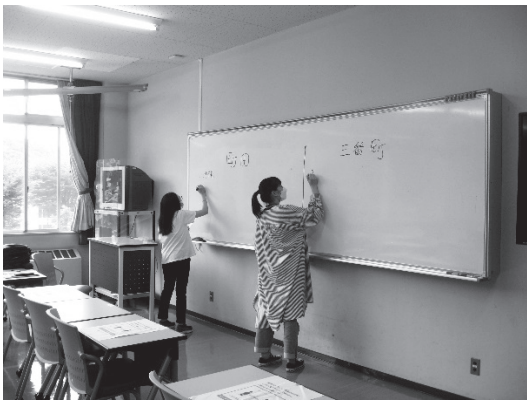


写真2 展示テーマ検討のためのワークショップ

トを発表した(写真4)。千代田三番町キャンパス班が「多摩キャンパスがあった?!」、町田キャンパス班が「夕焼けに魅せられて～雨紅のあしあと～」である。

第3日目は、さらなる資料調査や取材内容の検討と並行して(写真5、6)、生活文化博物館の展示壁面にある既存パネルを撤去し、展示パネルの仮レイアウトを行った(写真7)。また、パネルのサイズや解説文のフォント・文字数を決定し、午後には解説原稿の作成に取り掛かった(写真8)。

最終日の第4日目は、解説原稿の作成および校正と並行して、ハレパネ(のり付スチレンボード)による展示パネル作成の要領を説明し、パネルの作成を行った(写真9)。夕方に、出来上がったパネルの列品(展示)作業を川本学芸員の補助で行い(写真10)、展示が完成した。この展示をもとに、各班の代表者がギャラリートーク(展示解説)を行い(写真12、14)、4日間にわたる館園実習を終了した。

夏期一斉休暇期間が月曜日までであったため、実習期間は火曜日から金曜日までの4日間となった。この短い期間で、展示のテーマを企画し、調査、原稿作成、パネル作成、展示作業を手際よく行った。展示テーマについても、千代田三番町キャンパス班は、現在は使われていない「多摩キャンパス」という名称に関心を持ち、現町田キャンパス創設当時の状況を回顧する展示を行った。また町田キャンパス班は、誰もが知る童謡「夕焼け小焼け」が町田キャンパスのある相原とゆかりがあることに興味を抱き、その作者である中村雨紅の生涯についても調べた。両班とも短期間の作業であったが、充実した展示内容となった。パネル展示は夏休み中の短期間で終了し、新型コロナウイルス禍の安定しない時期だったこともあり、多くの来館者の目に触れることがなかったのは残念であった。以下に両班の展示概要を記して稿を閉じたい。

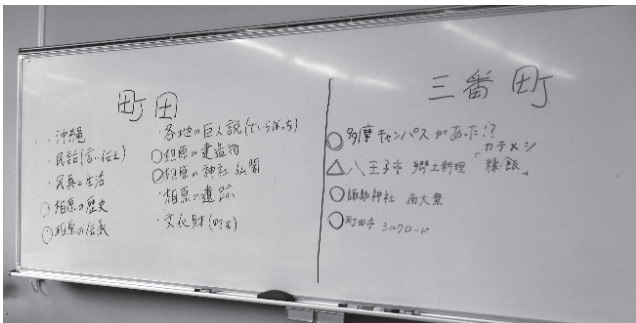


写真3 展示テーマの候補

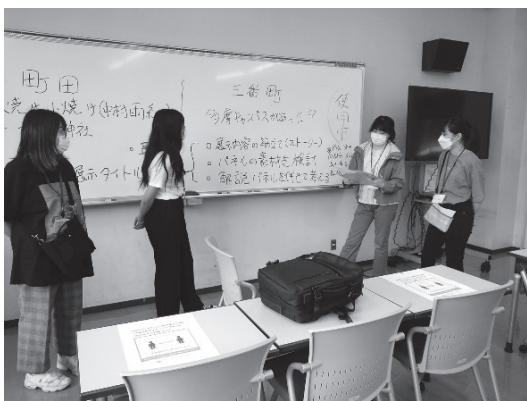


写真4-1 千代田三番町キャンパス班による展示テーマの発表



写真5-1 千代田三番町キャンパス班による資料調査と取材（川本学芸員からの聞き取り調査）



写真5-2 千代田三番町キャンパス班による資料調査と取材（現在の町田キャンパスを撮影）



写真6-1 町田キャンパス班による資料調査と取材（諏訪神社での現地調査）



写真6-2 町田キャンパス班による資料調査と取材（資料の検討）

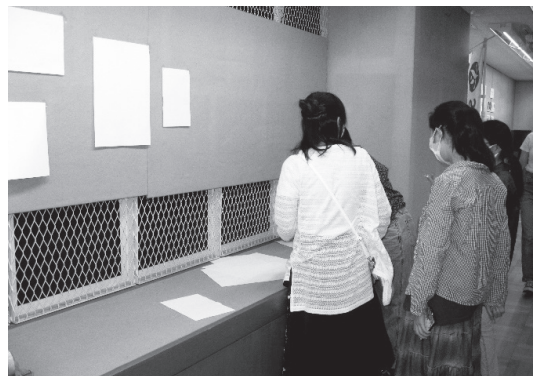


写真7-1 千代田三番町キャンパス班による展示の仮レイアウト



写真7-2 町田キャンパス班による展示の仮レイアウト



写真8-1 千代田三番町キャンパス班による解説原稿の作成



写真8-2 町田キャンパス班による解説原稿の作成



写真9 展示パネルの作成

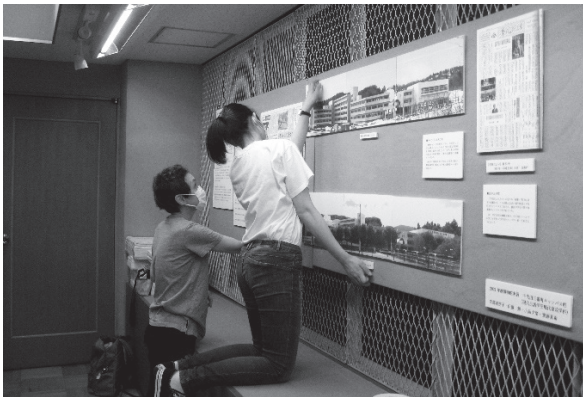


写真10-1 千代田三番町キャンパス班による列品（展示）作業



写真10-2 町田キャンパス班による列品（展示）作業

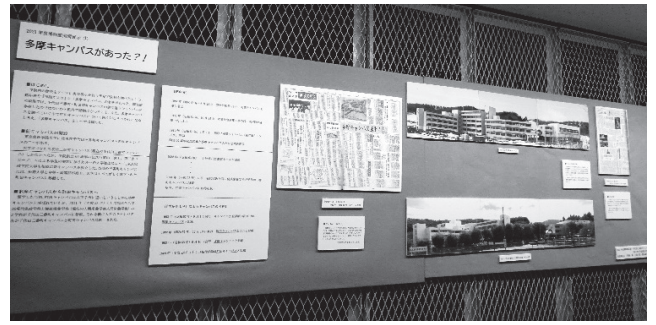


写真11 「多摩キャンパスがあった?!」展示風景



写真12 千代田三番町キャンパス班によるギャラリートーク（展示解説）

3. 館園実習の成果

A. 千代田三番町キャンパス班（現代生活学部現代家政学科 安部菜奈子・伊藤 舞・齋藤夏希・小島夕渚）
【多摩キャンパスがあった?!】（写真11）

(1) はじめに

学院内の歴史をテーマに実習展示を行う予定で資料を調べたところ、略年表や『学院だより』に「多摩キャンパス」の名称があった。調査前の段階では、千代田三番町・町田両キャンパスの他に違うキャンパスが存在したのではないかと班内で話題になったこと、また、多摩キャンパスを調べていく中で町田キャンパスについて深く知るきっかけになると考え、「多摩キャンパス」をテーマに選んだ。

(2) 新キャンパスの開設

東京家政学院大学には現在千代田三番町キャンパスと町田キャンパスの二つがある。大学ができた当初は三番町キャンパス（現在の千代田三番町キャンパス）しかなかったが、学院創立60周年の記念行事の一環と、第二次ベビーブームによる学生の増加に伴う郊外への大学進出によって、東京家政学院大学も相原に新キャンパスを設立した。当時の三番町キャンパスには、短期大学と中・高校が残り、大学はすべて新しく設立された町田キャンパスに移動した。

(3) 多摩キャンパスから町田キャンパスへ

開学した当初、町田キャンパスは八王子市に近いということから多摩キャンパスと呼ばれていたが、平成23(2011)年4月に現代生活学部現代家政学科と健康栄養学科(現在の人間栄養学部人間栄養学科)の2学科が千代田三番町キャンパスに移転した。それを機に大学のキャンパス名が千代田三番町キャンパスと町田キャンパスに改められた。



写真13 「夕焼けに魅せられて ~雨紅のあしあと~」
展示風景

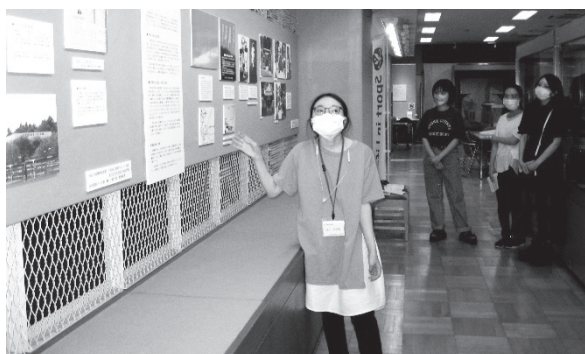


写真14 町田キャンパス班によるギャラリートーク
(展示解説)

B. 町田キャンパス班(現代生活学部生活デザイン学科:市橋るり子・井上明日香(班長)・金澤奈名子・時田茉由)

【夕焼けに魅せられて ~雨紅のあしあと~】(写真13)

(1) はじめに

実習展示のテーマを考えるにあたり、町田キャンパスがある相原の民話や童謡を調べていたところ、童謡「夕焼け小焼け」が相原にゆかりがあることが分かった。さらに、作者自身も相原に住んでいたことがあつ

たということがわかり、作者である中村雨紅と相原のかかわりを探った。

(2) 夕焼け小焼けと相原

「夕焼け小焼け」は中村雨紅が大正(1919)8年に作詞、草川信が作曲し、大正12(1923)年7月に発表された童謡である。作詞した当時、雨紅は叔母方に当たる相原村諏訪神社宮司中村家の養子となり相原に住んでいたこと、歌詞にある夕焼けの景色が相原から見る夕焼けに似ていること、城山町の普門寺の鐘の音が聞こえてきたことなど、あてはまる点が多いことから、舞台は相原とされている。

雨紅自身は作詞した時の背景をはっきりと覚えていないようであったが、東京とふるさとの往復時、ときには途中で日暮れとなり、幼い頃を思い出し、ふと郷愁の感傷も加わって、この詩が生まれた。

(3) 中村雨紅の生涯と「夕焼け小焼け」

中村雨紅の本名は高井宮吉で、明治30(1897)年、八王子市に高井丹吾の次男として生まれた。大正5(1916)年、現・東京工学芸大学卒業後、日暮里の小学校に奉職。大正6(1917)年に相原町中相原の中村武造の養子となる。高井家と中村家は宮司職で親戚関係にある。雨紅は20~26歳の間中村家に本籍を置く。22歳の時「夕焼け小焼け」を作詞。ペンネームとして養子先の「中村」の姓と師である野口雨情のように偉くなりたいと「雨」の一字をもらい、「紅」はそれに染まるという思いが込められている。そして大正12(1923)年、作曲家である草川信に作曲を依頼し、世に発表された。

同年、雨紅が宮司職にならないことがはっきりとしたため、養子関係は解消。同時に本城千代子と結婚する。その後、従妹にあたる高井フクを養子に迎えた。昭和元年、現・厚木東高校の教師を務め、昭和47(1972)年、75歳で逝去する。

(4) 諏訪神社と歌碑

相原諏訪神社は、町田市相原町にある神社。相原諏訪神社は、別当高岳坊長温が氏子と共に信州(長野県)下諏訪大社を丸山の地に勧請して養和元(1181)年に創建、相原山大明神と称していた。往古は相原全体の鎮守だった。

雨紅が養子となった中村家は、本神宮の宮司職を務めていた。このため、神宮境内に「夕焼け小焼け」の歌碑が置かれている。

日程表

1日目：8月17日（火曜日）		
時 限	内 容	備 考
2 限 10：40～12：10	10：00 集合（1階1202教室）	○生活文化博物館の施設と事業を知る。 ○班は基本的に各キャンパスで2班に編成し、代表者（班長）を選出します。
	10：15 実習のオリエンテーション (1) 自己紹介、班編成 (2) 実習の概要説明 (3) 日程の説明、IDの配布 (4) 生活文化博物館の概要説明	
昼 休 み		
3 限 13：00～14：30	13：00 展示の企画と工程	○博物館で実際に行われる展示の企画と工程について説明します。
4 限 14：40～16：10	14：40 展示企画の検討（1）	○班ごとに話し合い、パネル展示の企画を検討する。ユニークで楽しい企画をめざそう。
5 限 16：20～17：50	16：20 本日のまとめ・翌日の作業内容の確認 16：20 実習日誌の記入 17：30 解散	
2日目：8月18日（水曜日）		
時 限	内 容	備 考
1 限 9：00～10：30	10：00 集合（1階1202教室）	○パネル展示の企画を絞り込み、テーマを決定する。併せて展示パネルに使用する素材や説明をするための資料を調べる。
	10：15 本日の予定の確認	
2 限 10：40～12：10	10：30 展示企画の検討（2）	
昼 休 み		
3 限 13：00～14：30	13：00 展示企画の検討（3）	○午前中に引き続き、決定したパネル展示のテーマに沿って、パネルに使用する素材や説明をするための資料を調べる。
4 限 14：40～16：10	15：30 展示テーマの発表	○決定した展示のテーマとコンセプトを発表する。
5 限 16：20～17：50	16：20 本日のまとめ・翌日の作業内容の確認 16：20 実習日誌の記入 17：30 解散	
3日目：8月19日（木曜日）		
時 限	内 容	備 考
1 限 9：00～10：30	10：00 集合（1階1202教室）	○展示パネルを作成する手順やコツを解説する。 模擬資料を用いてパネル制作を体験する。
	10：15 本日の予定の確認	
	10：30 展示パネルの制作の実際	
2 限 10：40～12：10	13：00 パネル制作の準備	○展示で使用するパネルの準備として、最終的な写真の選択と打ち出し、文字原稿の作成を行う。
昼 休 み		
3 限 13：00～14：30	13：00 パネル制作の準備	○展示で使用するパネルの準備として、最終的な写真の選択と、文字原稿の作成を行う。
4 限 14：40～16：10	15：00 展示パネルの制作	○選択した写真素材や作成した文字原稿をプリントし、展示パネルを作成する。
5 限 16：20～17：50	16：20 本日のまとめ・翌日の作業内容の確認 16：20 実習日誌の記入 17：30 解散	
4日目：8月20日（金曜日）		
時 限	内 容	備 考
1 限 9：00～10：30	10：00 集合（1階1202教室）	○指示に従って既存展示を撤収し、今回の展示スペースを確保する。
	10：15 本日の予定の確認	
	10：30 既存展示の撤収作業	
2 限 10：40～12：10		
昼 休 み		
3 限 13：00～14：30	13：00 列品作業（パネルの展示）	○制作したパネルをレイアウトして展示を行う。 ○各班で打ち合わせを行い、展示解説のプレゼンを行う。
4 限 14：40～16：10	14：40 展示解説打ち合わせ	
	15：50 展示解説（ギャラリートーク）	
5 限 16：20～17：50	16：20 本日のまとめ 16：40 実習日誌の記入 17：20 翌日の見学実習の説明 17：30 解散	